



豊中市教育センター  
 〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600  
 TEL 06-6844-5290  
 FAX 06-6840-8127  
 平成26年(2014年)7月16日 第63号

## 研究・研修のすすめ

6月20日(金)に研究協力員会全体会を行いました。はじめに、確かな学び推進事業の一環として、秋田県学力向上フォーラム、筑波大附属小の公開研究会に参加された先生から、視察の報告がありました。型を決めて授業を進める秋田県、学びの過程を分析して授業を進める筑波大附属小、互いの良いところを吸収しながら、豊中の子ども達にとってわかる授業とはどんな授業か、研究を進めることを確認しました。7月現在13教科領域、76名の先生が登録され、2年間の研究に取り組んでいきます。

今年度の全体テーマは「授業力の向上、わかる授業の創造」です。各研究員会でも下記のようなサブテーマを設定しています。大きなことから考えて、小さなことから丁寧に研究していきます。

この夏も、教育センターでは、たくさんの研修を予定しています。実施研修の一覧表(番号順・日付順)と、おすすめとして教科領域等の研修の一覧表の2種類を配布しています。夏季休業中もゆっくり休めない状況にありますが、暑い夏のひと時を、熱い研修でリフレッシュしてみませんか。お待ちしております。



平成26年度(2014年度)豊中市研究協力員 全体テーマ『授業力の向上、わかる授業の創造』

| 教科             | 人数       | 研究テーマ(各教科・領域別)   | 教科             | 人数        | 研究テーマ(各教科・領域別)                                    |
|----------------|----------|--|----------------|-----------|---|
| 小学校音楽<br>中学校音楽 | 8名<br>2名 | 合唱・合奏指導の研究   | 小学校理科<br>中学校理科 | 1名<br>15名 | ・科学的思考力の育成をはかる授業展開・<br>授業構造<br>・授業における視覚教材の効果的な活用 |
| 小学校国語          | 14名      | 考え合う物語文の授業づくり ～発問、板書をもとに～  | 中学校国語          | 2名        | (検討中)   |
| 小学校算数          | 17名      | 楽しく学力がつく計算学習   | 中学校外国語         | 3名        | 話す・書く力を育てるための活動研究                                 |
| 小学校外国語         | 1名       | ・外国語体験活動へつなげる低学年の異文化体験授業の創造<br>・Hi, friends!の題材を生かした授業案の創造<br>～めあての設定から評価活動まで～ | 授業のユニバーサル      | 6名        | 全員が楽しく「できる!わかる!」授業づくり                             |
| 小学校体育          | 2名       | (検討中)  | ICT活用          | 2名        | (検討中)   |
| 小学校道徳          | 3名       | (検討中)  |                |           |   |



# 未来の科学者育成推進事業 出前授業 始めました



「未来の科学者育成推進事業って何？」  
 「子どもたちの科学に対する理解を深めるため、科学に携わる社会人を講師として出前授業を実施するんだよ。小中学校普通授業と理科クラブへも出張するよ。」



**(受講した児童の感想)**  
 今日葉脈標本をつくりました。葉っぱの中には、水が通る管と養分が通る管があることを初めて知りました。  
 なぜ薬品で葉っぱの色が落ちるんだろう。落ちた色は何だろう。葉っぱは光合成以外に何をしているんだろう。  
 上手にできた。講師の先生に「科学者になってね」と言われて、とてもうれしかったです。



～新田小6年生で実施～

科学に対する興味・関心・意欲・探究心を育むんだよ。  
 科学は世の中でどんなふうに関わっているんだろう。  
 将来の夢や希望についても考えてみよう。



**未来の科学者出前授業を希望される場合は管理職にご相談ください。**



# 豊中マチカネ先生塾について



第2回講座（6月21日）と第3回講座（7月5日）では、プレゼンテーションについての講義と演習を行いました。  
 保護者や児童生徒に納得してもらえる説明ができるよう、練習をしました。



今年度は、33名の学生を研修生として受け入れ、土曜の午後に年間12回の講座を開催します。  
 6月7日に実施した第1回講座では、本市の教育についての講義を聞いた後、楽しみながらお互いの名前を覚えられるゲームやエクササイズ等の体験を行いました。



9月以降には、受入れを希望していただいた小中学校での、実地実習を予定しています。  
 研修生が、先生の仕事を体験することを通して、豊中の教育について理解し、豊中の先生を目指す意欲をいっそう高めることを目的としています。  
 ご協力お願いいたします。



## 教育センター7階 教育相談チームの主な取り組みについて

教育相談員（臨床心理士・言語聴覚士）は、先生方や保護者とともに、子どもへの関わりや支援の方法などについていっしょに考えたり、子どもへのサポートなどを行ったりしています。



### ●子どもの心理・発達などについての来所相談

毎月第2土曜日にも保護者相談（初回のみ相談）を実施

面談やプレイセラピーなどをつうじて、子どもに向き合い、寄り添い、共感しながら、子ども理解を深め、子ども自身のエネルギーが高まるよう支援しています。心の成長とともに、人と人とのつながりがひろがり、豊かな毎日を送れることを願って取り組んでいます。

また、保護者の了承を得られれば、学校園の関係者で子ども理解を深めるためにカンファレンスを実施しています。



（保護者の方と子どもは、別々の部屋で面談やプレイセラピーを行います）

### ●小学校への定期的な訪問（学校からの依頼を受け、単年度で実施）

<派遣スケジュールの例 小学校>

| 時間    | 内容   |
|-------|--|
| 14:00 | 予定の確認後<br>授業観察へ                                    |
| 15:00 | 保護者との面談（50分程度）<br>担任の先生との話し合い<br>（授業観察・保護者面談をふまえて） |

#### 授業観察

教室に入って、授業中の様子を観察し、対応に苦慮される子どもへの関わり方について、発達・心理などの専門的な視点から、先生方と一緒に考えていきます。

#### 保護者との面談

子育てや子どもへの接し方で悩んでいる保護者の相談を、発達・心理などの専門的な視点から行います。保護者の了承が得られれば、面談後に内容について先生方と共有し、今後の対応について検討することもあります。



### ●教育相談総合窓口（電話もしくは来所）

子育てや教育の様々な問題で悩んでおられる保護者や子どもからの電話相談を受け、必要に応じて関係機関なども紹介しています。

先生方から受ける相談より

落ち着いたクラスづくりのための工夫（その②）

今回は「落ち着きのないクラス」の事例を取り上げ、視覚的な支援を行う等、子どもたちが見通しを持って授業に取り組める「環境づくり」のポイントを見ていきました。今回は視点を変え、より落ち着いたクラスづくりをしていくために、先生と子どもたちがより良い「関係性」を築いていくことの大切さについて考えていきたいと思います。

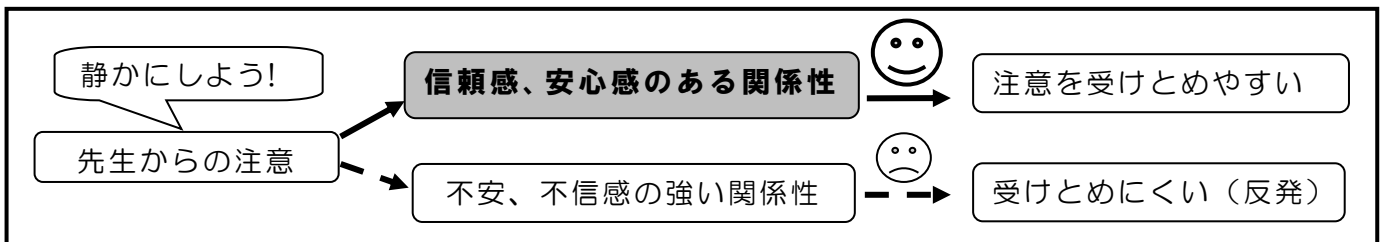
まず、前回の事例を簡単に振り返ってみると…

小学2年生の算数の時間です。先生は教科書を拡大した図を黒板に貼って、説明をしています。しかし、クラスがだんだん騒がしくなり、授業を聞いていた子どもたちもソワソワしはじめました。

一言で「落ち着かない状態」と言っても、クラスの中には色々な子どもたちがいるので、子どもたち一人ひとりの様子をしっかりと見ていくことが大切です。では、上記の子どもたちの様子をさらに詳しく見てみましょう。

おしゃべりを始めてしまった子、立ち歩いている子、退屈そうにしている子、真面目に授業を受けたいのに受けられなくて困っている子…。中には、落ち着かない子を注意する子もいますが、なかなかその声は届いていないようです。

さて、このような中で、先生が注意をしたとします。子どもたちと先生との「関係性」に焦点を当ててみた時、この後どのようになると考えられるでしょうか。



上の図のように、子どもたちと「信頼感、安心感のある関係性」が築けているときには、同じ注意であっても受け入れやすいということが考えられます。日頃から子どもたちとの信頼感、安心感を構築していくような関わりが大切となります。

**信頼感、安心感のある関係性を築くためのポイント**

- ① 休み時間を利用する等、日頃から子どもたちと**関わる機会**を広く持つ
- ② 一人ひとりの気持ちを大切にしたいという**メッセージ**を言葉や態度で伝える
- ③ よいところはしっかりと認め、ほめ、子どもたちの言動は**肯定的に**捉える
- ④ 子どもの気持ちをしっかりと**聞いた（受け止めた）**上で、不適切な言動は止める
- ⑤ 子どもたちの言葉・行動の**背景**にも目を向けて、理解した上で対応を考える

前回、今回と落ち着きのないクラスの事例を見てきました。その背景によって必要な関わりや対応は異なります。子どもたち一人ひとりをよく見て、先生一人で抱え込まず、学校として取り組むことも大切です。

※とよなかスクールネット「気になる子どもへの支援のヒントー相談事例集ー」にも関わり方のヒントが書かれていますのでご参照ください。